

様式第 5 号

出張調査報告書

令和 7 年 1 月 2 3 日

松伏町議会議長 田 口 義 博 様

会 派 名 公明党

代表者氏名 川上力

下記のとおり先進地視察をしたので届け出ます。

記

1 期 日	令和 7 年 1 月 9 日から令和 7 年 1 月 10 日
2 視 察 地	(1) 兵庫県赤穂市 (2) 兵庫県加東市
3 視 察 目 的	(1) ひきこもり対策推進事業について (2) 小中一貫校にかかる先進校について
4 視 察 者 氏 名	川上力 村上真由美
5 視 察 結 果	行程、視察結果は別紙のとおり

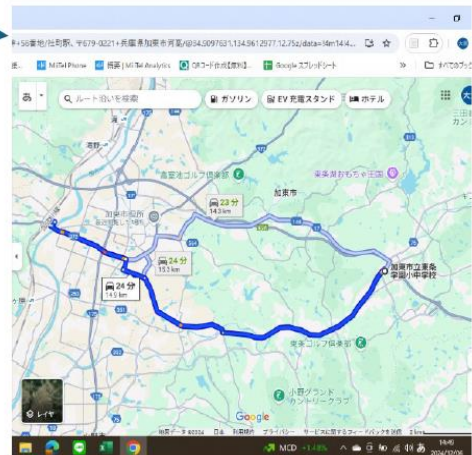
行政視察 行程表

◆令和7年1月9(木)

8:00 東京発 (のぞみ61号)
11:00 姫路駅着 (JR山陽本線)
11:37 播州赤穂駅着
播州赤穂駅……450m、徒歩かTaxi 赤穂市役所着
 《赤穂市役所行政視察 13:00～15:00》
15:36 発播州赤穂駅
16:08着 姫路駅着

◆令和7年1月10(金)

10:27 姫路駅発
10:37着～10:42発 加古川駅
11:19 社町着
 社町駅……Taxiで、東条学園小中学校へ(約30分)
 (12:25発→12:42着)
 11:19～12:15《昼食》
 12:15～12:45(社町駅→東条学園小中学校)(加東市天神56番地 0795-47-0024)
 《東条学園小中学校 13:00～15:00》
 (Taxiで社町駅へ)
15:55 社町駅～加古川駅 16:31着-16:38発
16:38発
16:48着 姫路着
16:59発
19:57着 東京駅 (のぞみ40号)



参加者)

赤穂市視察 5人 ◎橋詰昌児(埼玉県議会議員)
◎小野潔 ◎五十嵐恵千子 ◎大泉日出男(吉川市議会議員)
◎川上力(松伏町議会議員)

加東市視察 5人 ◎小野潔 ◎五十嵐恵千子 ◎大泉日出男(吉川市議会議員)
◎川上力 ◎村上真由美(松伏町議会議員)

○視察の趣旨及び目的

今回の視察は、引きこもりの方は相当数いると実感しているものの、詳細な実態が把握できないこと。引きこもりの方に対する支援について、就労に結び付ける(自立した生活ができるようにする)ことが目的とする考えや、引きこもる方の辛さを認め、一概に就労をめざさない考え方もあることから、ひきこもり対策推進事業について、先進事例を学び参考とすること。

並びに、町にある3校の小学校について、市街化区域と市街化調整区域の人口格差から、1校が小規模特認校になっている。学区の変更などにより児童数を平準化するには課題もある。小規模特認校へのスクールバス導入なども検討に値すると考えている。以上のような状況から、統合に伴う小中一貫校にかかる先進校について、先進事例を学び参考とすること。

視察の概要

(1) 1月9日(木) 兵庫県赤穂市

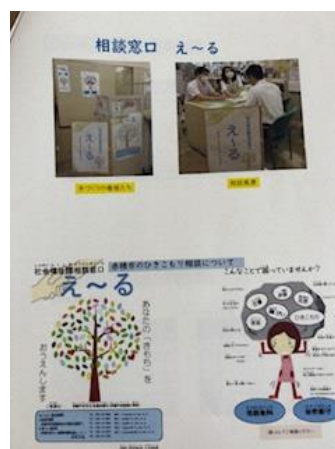
【引きこもり対策推進事業について】

赤穂市のひきこもり対策推進事業は①相談、②居場所、③市民啓発から成り立っている。

①相談は、赤穂市社会福祉課が相談窓口の「えーる」を開設している。

市の窓口の手作りの看板と相談ブースを設置し、毎年市の広報でのチラシ(添付)配布を始め、多くの関係会議などで周知している。

「えーる」の延べ相談件数は令和5年度で460件、令和6年度は半期で230件と、ほぼ同数であるが、訪問件数が伸びており、当事者との人間関係が構築されてきた結果と受け止めている。



また、「ひきこもり家族の集い」や「みんなのいえカフェ」「みんなのいえ女子会」「みんなのいえ映画観賞会」「移動式みんなのいえ」などを企画している。



市民の理解促進には啓発活動として「みんなのいえ通信」(チラシ添付)を毎月発行している。また、市の広報紙に活動の様子も掲載している。



ひきこもり対策推進事業にかかる予算は令和6年度に420万2千円を計上。社会福祉協議会への委託料のみであり、主な支出は、約6割が人件費、その他は家賃・駐車場代などとなっている。

最後にひきこもり対策推進事業と連携する形で、赤穂市就労支援準備事業としてジョブトレーニング(町の清掃事業)を行っている。



(2) 1月10日(金) 兵庫県加東市

【小中一貫校にかかる先進校について】

東条学園小中学校を訪問

〈経 緯〉

平成18年3月に社町、滝野町、東条町が合併をして加東市が誕生した。それにより公共施設の重複と耐久年数を迎える施設があったことから「公共施設適正配置計画」を立案した。公共施設の中でも3中学校、9小学校と多く占める学校施設は、昭和40年代辺りからの建設で老朽化や少子化による単学級・複式学級が進んでいた。また、近々行われるであろう学校教育法(平成27年6月改正 小中一貫教育を制度化)を見越して、新たな教育形態である小中一貫教育を推進することとした。

- ・東条学園小中学校 令和3年度開校(小学校2校と中学校1校)
- ・社地区小中一貫校 令和7年度開校予定(小学校5校と中学校1校)
- ・滝野地区小中一貫校 令和10年度開校予定(小学校2校と中学校1校)



〈小中一貫教育のメリット〉

- ①児童生徒の成長を見通した義務教育が行いやすい
- ②小中学校の教職員が互いに認め合い、学びあうことで、義務教育9年間で児童生徒を育てるという意識を高めやすい。
- ③義務教育9年間の系統性・連続性のある教育課程を編成（前期4年、中期3年、後期2年など）
- ④小中学校に配置された教員が、互いに免許を有する教科において、乗り入れ授業を行うなど、専門的な指導を拡大実施できる。
- ⑤人間関係の固定化等単学級の課題解決を図り、児童間の多様な学びや活動を図ることで、豊かな人間性や社会性を育むことができる。
- ⑥小学校から中学校進学に対する生徒指導上の諸問題（中1ギャップ等）の軽減が期待できる。
- ⑦中学生が下級生である小学生との日常的なふれあいを通じ、様々なことで自尊感情を高めることができる。



【全体事業費】

東条地域小中一貫校（加東市立小中学校） 約58億円

〈主な財源〉

国庫支出金	公立学校施設整備国庫負担金（補助率1/2）	約13億5千万円
	学校施設環境改善交付金（補助率1/2、1/3）	約4千万円
計		約13億9千万円
地方債	教育債（充当率90%、交付税措置66.7%）	約12億2千万円
	合併特例債（充当率95%、交付税措置70%）	約26億2千万円
計		約8億4千万円



○感想 川上 力

赤穂市のひきこもり対策推進事業については、民生・児童委員へのアンケート調査からはじめ、実態の把握に努めてきたと伺った。その際の情報は伝聞や噂の類が多かったものの、当事者がいると見込まれる地域一帯に「えーる」のチラシを一斉配布するなど取り組みをしてきた。その結果、当事者を抱える家族からの相談が増えることになったと伺った。参考になる取り組みだと感じた。また、チラシの内容も、ひきこもりたげが目立たないように総合的な支援をうたったものにしたことも功を奏していると評価していた。

特に感心したのは「みんなのいえ」での取り組みである「家族の集い」が悩みを共有し励まし合う場所として、支援する側からは、決して言えないような会話があり、お互いの力になっているとの話を聞いたことです。また、その他の取り組みも、当事者からのリクエスト(小さな声)を具現化したもので、一人の参加でも構わないという、費用対効果にとらわれない姿勢が、個人を大切にする信頼醸成につながっていると思った。

加東市の小中一貫校の取り組みについては、3町の合併と少子化に伴う施策であるものの、その機会を捉えて、戦後の6・3制の義務教育からの転換をめざした先進的な取り組みであると感じた。

9年間の課程を1年から4年、5年から7年、8年から9年という3つのステージに分けた教育は、これからの教育の在り方を彷彿とさせるものを感じました。しかしながら、事業規模が約60億円となっており、国費や県費のほか、有利な地方債を活用しても、現時点で松伏町での実現は困難な印象を受けた。ただし、義務教育の在り方や、部活動を通じた小中学校の交流の在り方など、参考になる部分もあった。

○感想 村上真由美

私は、議会広報発行委員会に出席のため、2日目の加東市立小中学校の視察より合流した。3町の合併となり、少子化の影響で人口格差もあり校舎も老朽化していること、また今後の学校教育を見越しての小中一貫校にしたとのことであった。中一ギャップ、児童の早熟化の解消を鑑み、3つのステージに分けて9年制になっていた。先輩が後輩の面倒をよく見て、トラブルなどはまったく無いとのことであった。体育館、グラウンドは2カ所あり、授業の不足にならないようにしていた。また、職員室は小中の先生方が同じフロアーにいるためコミュニケーションもとれ、相談もしやすくなっている事で、人とかかわることで児童・生徒も教員も成長できるのだと感じた。前3校で使用していたピアノが校内の所々に置いてあり、誰でも弾いてよいようになっていたのが印象的であった。

小中一貫校となる前の校舎に関しても、地域のコミュニティ施設や防災備蓄倉庫、選挙の投票所、前中学校のグラウンドは、校舎を解体し大グラウンドと駐車場に活用されていた。予算がすごくかかることから実際に当町では、困難だと思ったが、教育方針は見習うべきところがあると感じた。